

ねぎらい発話の特徴

釜田友里江

神田外語大学 アカデミックサクセスセンター

Kamata-y@kanda.kuis.ac.jp

1. はじめに

私たちは日常生活において相手の苦労を汲み取り、ねぎらうことがある。本研究は、以下のような発話のやりとりに注目する。この発話のやりとりは、単に情報を交換・共有するだけでなく、AさんがBさんの大変な状況に気遣いを示しているように見える（このような5行目のAの発話を本研究では「ねぎらい」として捉える）。

- 1 B: いえからね: 一時間ぐらいかかるかな＝
- 2 A: 通って来てんの.＝
- 3 B: うん
- 4 (0.3)
- 5 A: hh:(.)大変やな.:＝
- 6 B: う:ん(.)でまだ近いほうかも
- 7 A: そやな

では、相手をねぎらうことは、人間関係を構築、維持するうえでどのような役割を果たしているのか。

本研究は、以下の3つの視点から分析を行う。相手をねぎらう場合にどのような仕方でねぎらい、またねぎらわれた側はどのような反応を示しているのかを会話のやりとりから分析する。

- ① 話し手（ねぎらう側）：どのようにねぎらうのか
- ② 聞き手（ねぎらわれる側）：どのような反応を示すのか
- ③ 話し手と聞き手のやりとり：どのような対人効果がみられるのか

2. 先行研究

高宮（2007）は、精神療法としてねぎらいを取り上げ、こども外来の初診において、こどものストレスを緩和させるためにねぎらいのことばをかけると述べている。

末盛（1999）は、夫婦関係の満足感について調査をし、妻は、夫が家事を遂行するよりも、夫からのねぎらいを望んでいると指摘している。

先行研究では、ねぎらうことがストレス緩和（高宮：2007）や妻の情緒的サポートとなる（末盛：1999）ことがわかった。従ってねぎらいを受けた側は安心感や満足感が得られることが考えられる。

相手に安心感や満足感を与えることができる方法の1つに、ねぎらいがあることが先行研究から示唆された。では、日常生活において、どのようにして私たちはねぎらいのことばをかけているのだろう。本研究では、ねぎらいがどのようにして行われるのか、ねぎらいのことばをかける側の発話とねぎらわれた側の発話を分析し、そのやりとりの特徴を明らかにすることを目指す。

2.1 本研究におけるねぎらいの定義

ねぎらいを伝える際の表現（「御疲れ様」や「御苦労様」など）に着目している研究に、宅間（1999）の研究がある。宅間（1999：47）は、現代語において「相手の骨折り行為に対して、ねぎらいの言葉をいろいろな場面で用いることができる」と述べている。

宅間（1999）の「相手の骨折り行為」という捉え方を参考に、以下を本研究においてねぎらうこととして捉える。

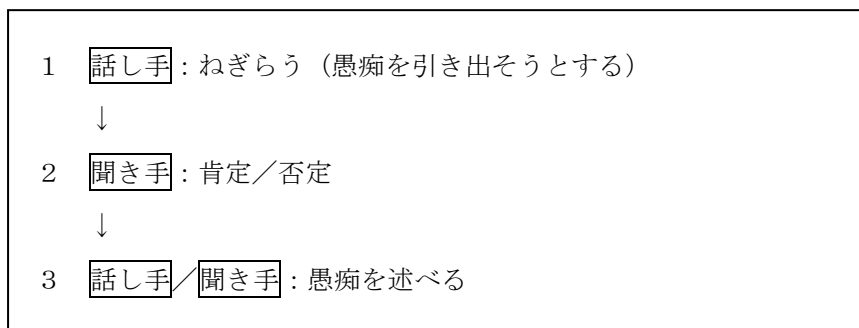
相手がエネルギーを消費している／消費した ことに対して気遣いを示そうとする態度

3. 調査の概要

調査対象は、日本の大学に通う学部1年生である。話題の指定はせずに自由に15分間会話をしてもらった。会話をICレコーダーで録音した。録音した会話を西阪（2008）に従って文字起こしを行った。

4 結果

会話を分析した結果、以下のような流れが観察された。



話し手は、聞き手をねぎらうことで聞き手から愚痴を引き出そうとしていることが観察された。そして話し手が聞き手をねぎらった後に、話し手または聞き手が愚痴を語り始めることがみられた。

5 考察

以下の事例はAとBが推薦入試について話しているところである。Aは農学部、Bは文学部である。互いに推薦入試を受けたが、学部によって推薦入試の方法が違うということを確認している場面である。

- 1 A: 文学部は違うよね.
- 2 (.)
- 3 B: 文学部[ね:]
- 4 A: [その]前だよね.
- 5 B: [う:ん]
- 6 A: [小論]とかだよね.
- 7 B: 小論(.)と面接[:]
- 8 A: [あ]れ° きつくない?° なんか[英]語とか読むんでしょ.
- 9 B: [うん]
- 10 B: あたし落ちたもん
- 11 A: あそ[うなの.]
- 12 B: [hu hu].hh う:んだかその一次選考で落ちた
- 13 A: あ: :
((省略))

- 14 B: 当然だけど :
- 15 A: >う [ん<]
- 16 B: [行] ったら推薦の子いる訳じゃんか. [:]
- 17 A: [う] : ん
- 19 B: >すごいよな : この子やったんだよな< [: と] か思う
- 20 A: [hu hu]
- 21 A: .h[h]
- 22 B: [.hh]
- 23 A: ((咳)) でもあれってさ : すこ 10 月とか 11 月に決まるんでしょ .
- 24 B: うん 11 月
- 25 (0.3)
- 26 A: いかつくむか [つくそれはむかつくよね.]
- 27 B: [むかつくよね. むかつく]
- 29 A: あの 12 月とかのさ :

A は B の推薦入試の科目を確認し (6 行目)、B から確認が与えられてから (7 行目)、8 行目で B をねぎらっている。このねぎらいに対して B は「うん」(9 行目) と一度肯定し、「あたし落ちたもん」(10 行目) と卑下をしている。その後、B は推薦入試で合格した人に対して「>すごいよな : この子やったんだよな<」と心境を愚痴のように述べている (14、16、19 行目)。B の発話後に、A は B の心境を汲み取りながら一緒に愚痴を述べているようにみえる (26 行目)。

話し手 A は聞き手 B をねぎらうことで B から愚痴を引き出し、愚痴を発散、解消する機会を作り出そうとしていることが示唆された。

参考文献

- 末盛慶 (1999) 「夫の家事遂行および情緒的サポートと妻の夫婦関係満足感-妻の性別役割意識による交互作用-」『家族社会学研究』 11 pp71-82
- 高宮静男 (2007) 「日常臨床における精神療法-ねぎらい療法を中心として-」『臨床精神医学』 36 (11) pp. 1445-1449
- 宅間 (1999) 「「御～様」表現の史的考察-「ねぎらい」表現の変遷から-」『語文研究』 88 九州大学国語国文学会 pp. 45-58
- 西阪仰 (2008) 「トランスクリプションのための記号」
<<http://www.meijigakuin.ac.jp/~aug/transsym.htm>> (閲覧日 : 2017 年 7 月 1 日)